

教科	図画工作
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 育成を目指す資質・能力を明確にすること</p> <p>(2) 内容や時間のまとまりを見通しながら授業改善を行うこと          学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進める。</p> <p>(3) 児童一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせること</p> <p>(4) 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させること</p> <p>(5) 自分の成長やよさ、可能性などに気付き、次の学習につなげられるようにすること</p> <p>(6) 言語活動を一層充実すること</p> <p>(7) つくり、つくりかえ、つくるという学習過程を重視すること</p>	

教科	美術
主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント	
<p>(1) 育成する資質・能力を明確にすること          学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等や、生徒の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて設定すること。</p> <p>(2) 内容や時間のまとまりを見通しながら授業改善を行うこと</p> <p>(3) 生徒一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせること</p> <p>(4) 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させること</p> <p>(5) 生徒や学校の実態に応じ、これまでの指導方法を生かしながら、多様な学習内容を組み合わせて授業を組み立てていくこと</p> <p>(6) 言語活動を一層充実すること</p>	

出典：福島県教育委員会「令和4年度 福島県小・中学校教育課程研究協議会資料」

# 「深い学び」を具現する授業デザイン例 美術

## 学習指導要領における領域・内容

指導主事による5分間授業動画  
<https://youtu.be/JloZJd8byrQ>



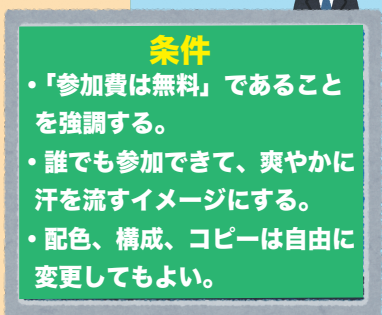
中学校〔第2学年〕A表現(1)イ(2)ア **(共通事項)**

- ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
- ・造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

## 本時のねらい

色や形の効果、全体のイメージを視点としながら比較鑑賞する活動を通して、ポスター表現の工夫について説明することができる。

授業デザイン例	学習者の視点	授業者の視点
<p>先生。なんか伝わりにくいです。</p> <p>お祭りとお化け屋敷が一緒になっている感じがします。</p> <p>黒い背景と赤い文字の組み合わせは爽やかなイメージじゃないよね。</p> <p>人の表情も笑顔がいいね。</p> <p>「9:00～」って重要な？</p> <p>よし！できた！</p> <p>でも、なんか違うんだよな…。</p> <p>参加したくなるコピーだね！</p> <p>色数が少ない。色のトーンが合っているね。</p> <p>伝えたいことは文字を大きくした方がいいね。</p> <p>もう一度挑戦してみよう。もっとよくなるかも！</p>	<p>うわ〜。言われちゃったなあ。</p> <p>「指導」って厳しいからやめよう。</p> <p>縦にして人を大きくする構成にしてある。</p>	<p>ランニング教室のポスター制作の依頼を受けました。頑張って作ってみたいんですがどうかな？</p> <p>では、どうすればより伝わるポスターになるかな。みんなで考えてみましょう。まずポスターの条件を確認します。</p> <p><b>視点P</b></p> <p>実は、本当はこのようなポスターがありました。</p> <p>みなさんがデザインしたものと比較してみましょう。</p> <p>配色や視線の工夫はどうか？</p> <p>サブ アクセント メイン</p> <p>・色や形を工夫することで、伝えたいことをより強く表現できる。色調を合わせて、まとまりのあるデザインにしている。見る人に訴えかけるコピーを選んでいる。                  ・アクセントの効果をつかって強調させたり、視線を誘導したりしている。                  ・表現の工夫を明らかにしたことで、ポスターのよさに気づくことができた。理解したことを自分の作品に生かしたい。</p>



**視点⑩⑫**

**生徒のワークシート**

## 本時における「深い学び」を具現する仕掛けや発問

- 模範となるポスターの見本を提示し、比較鑑賞を行う。これにより、造形的な視点を基に様々な情報を精査し実感を伴いながら考えを形成させることで深い学びが期待できる。さらに、獲得した知識を使って再度挑戦させることで、授業はより深まりのあるものになる。(視点P→視点⑩・⑫)